

研究発表「教育課題部アンケート結果について」

阪南中学校 渡辺洋一先生

- 教育課題部ではこの 10 年間、「力のある学校」「協同学習」について取り組んできた。本年度は、3つのテーマによるアンケートを実施。
- アンケート[1] 「主体的・対話的で深い学び」について

回答があった学校（65.9%）では、全校的・個人的の違いはあるが、何らかの取り組みがなされている。班活動・グループワーク・ペア学習といった方法で交流し、視覚や文章を用いて表現することで、学びを深めている。校内研修の実施状況については課題がみられる。
- アンケート[2] 「授業における ICT について」

約 7 割の学校で授業用パソコンが活用されている。タブレット端末は半数近くの活用にとどまるが、活用方法は PC よりも多様にわたる。活用にあたっては機器の使いにくさがネックとなっており、ハード面・ソフト面ともに課題が多く挙げられていた。現在 LAN の整備が進められており、今後は活用が進むと期待される。
- アンケート[3] 「朝の活動について」

全校集会・学年集会はほとんどが実施。ドリル学習や読書はそれぞれ 4 割程度の学校で取組みがある。実施においては、職員朝礼と並行する難しさが指摘されている。

【質疑応答】

- ★ ICT について、学校規模に応じた活用状況にちがいはあるのか？
 - 大規模校での取組み。パワーポイント＆ワークシート＋演習プリントでの授業。板書を書き写させるよりも時間短縮。準備はかかるが、作ってしまったら楽。デジタル教科書や実技教科での解説動画といった活用も。ソフトを触る機会は少ないかもしれない。
 - 小規模研究校での取組み。授業の流れの中で「ちょっと使う」ことが多い。面白い使い方を共有したい。パワーポイントのデータは更新して改良できるので、小規模校でも活用できる。
 - パワーポイントのシートを配布し、生徒に書き込ませてノートに貼らせる実践例も。
- ★ 主体的・対話的で深い学びについて、実感としてグループ学習の実践が増えている。机の並べ方、6 人の生活班か 4 人の学習班か、など運用例があれば。
 - 協同学習の研修では 4 人とされる。人数を増やす場合、役割分担を決めておかないと全員が参加しにくくなる。
 - 机の並びについて、4 人組を「フォーメーション A」・コの字を「B」・一斉を「C」と名付けて最初に練習させてから活用している先生がいる。
- ★ 朝の活動について、読書か学習か、両方か？ 生活指導的に「静かな授業のはじまり」によって授業規律を確立する目的で実施している。朝の活動について意図をどのように考えているのか？
 - ふだんは朝学習をさせている。期末テスト後の各学期末に「本を読ませるための期間」を設けている。
 - 国語科から提案して実施。（読書を目的として実施）／ →「全員が読む本」を準備
 - （提案と同じく）朝読書を生活指導的理由で実施している。